

国際ロータリークラブ第2570地区 第4グループ



手を貸そう

本庄ロータリークラブ会報

No.41 - 19	第1984回例会	11月13日	2003年 11月20日発行
国際ロータリー会長 ジョナサンB.マジアベ		第2570地区ガバナー 高山 孝	
会長 小此木 利明、 会長エレクト 加藤 玄静、		副会長 岩本 英人・狩野 輝昭	
幹事 斉藤 清一			

《本日の例会》

ガバナー公式訪問

点 鐘 午後 12 時 30 分
進 行 渋澤 健司 SAA
国歌斉唱 君が代
ソング 「我らの生業」 斉唱
来訪者 国際ロータリー第2570地区
ガバナー 高山 孝 様
" 第4グループ
ガバナー補佐 浅田 進 様



会長挨拶・報告

小此木 利明 会長



みなさんこんにちは、秋も深まってまいりまして紅葉も里の方へだんだん下りて来ました。本日も例会出席ご苦労様です、また今日は大事なガバナー公式訪問です。

まずはおお客様の紹介をいたします。国際ロータリー第2570地区ガバナー高山 孝様、同第4グループガバナー補佐浅田 進様です。

例会前にお二人と会長幹事の4者面談をさせていただきました。その後入会の浅い会員4名はガバナーにお話をいただいております。

この後、卓話とクラブ協議会と長時間になりますがよろしくご指導のほどお願いいたします。

さて本年度、高山ガバナーはリーダーシップを発揮するには「意欲と情熱が一番大切」と説いております。私もこの一年同じ目線で誤魔化すことなく、非力ですが全力ですべての問題に立ち向かっていく所存です。本庄ロータリークラブも高井さんが本年度基礎を作った「価値ある奉仕活動を」をかてに諸問題を消化してゆかねばと思っています。特に会員増強には全会員とともに幅広く活動しなければならないと思います。

また昨年からの会員減少に伴う、ロータリー財団・米山奨学会等には一段のご支援とご協力をお願いいたします。

出席率アップにおいて、いかにロータリーを理解するか、理解しようとしているか、そのやる気のバロメーターが出席率に現れるのではないのでしょうか。

報告ですが、先週の7日、茂木本庄市長より感謝状をいただけてきました。これは前年度の新幹線建設資金の協力によるものです。

また同日夜、第4グループ浅田ガバナー補佐の点鐘による職業奉仕のセミナーが、深谷のグランドホテルで行われ、私と斉藤幹事、阪上会員で参加いたしました。上福岡のロータリアンで経済アナリストの竹井 巖氏の講演でした。昭和初期の経済不況の原因から平成不況までの、日本の政治と経済の足跡のお話でした。2570地区5グループそれぞれで行ったそうですが、大変ためになる講演でした。

ほかに楽市の件ですが、この後担当委員長よりお話があると思いますのでよろしくお願ひいたします。

以上、会長挨拶とさせていただきます。

来る11月30日商業際楽市に出店いたしますので皆様の協力をお願い致します。

集荷場所は、城立寺の事務所1階です。24日から28日の間に納めてください。

また楽市の売上金を奉仕活動に使ってゆきたいと思ひます。

幹事報告

斉藤 清一 幹事



高山ガバナー本日はようこそお越しくださいました。例会、クラブ協議会とよろしくお願ひ致します。

クラブ協議会の確認をいたします。1時40分より3階のプリンスホールで開催いたします。発表者以外の会員の席も準備しています。

楽市の件ですが、11月30日(日)に決定しました。後ほど加藤社会奉仕委員長より詳細について説明がありますので、よろしくお願ひ致します。

- ・ 熊谷RCから創立50周年記念誌が届いています。
- ・ 例会変更が皆野長瀬RCから届いています。
- ・ 学友会ニュースが届いています。

委員会報告

社会奉仕委員会

加藤 玄静 委員長



親睦活動委員会

下山 正男 委員長



お知らせとお願ひを申し上げます。

12月18日にクリスマスパーティーを行う事になりました。楽団を招いて盛大に行う予定です。

後ほどFAXで出欠席を取らせて頂きます。

ロータリー財団委員会

後藤 芳生 委員長



財団よりご報告申し上げます。

今月はロータリー財団月間という事で、先週はロータリー財団部門委員長野中 弘之様に卓話をいただきました。

本日、渡辺 優さんが準フェローに、岩淵 富男さんがポールハリス・フェローに協力いただきました。

ありがとうございました。

卓 話

・国際ロータリー第2570地区 ガバナー 高山 孝 様



ロータリーファミリーのみなさんこんにちは。

皆様はすでにご承知かとおと思いますが、2004年には大阪を会場にして、日本では26年ぶりにロータリーの国際大会が開かれます。様々なセレモニーが開かれますが、この大会が終わってからRIの会長が久しぶりに日本から選出される予定でした。その方はみなさんも良くご存じの茶道の千 玄室さんで、この国際大会の実行委員長もなされておられます。

9月7、8日にシカゴで開催された2005-6年RI会長指名委員会ではスウェーデンのカール・ウィルヘルム・ステルハーバー氏が指名され、残念ながら日本からの会長選出はかないませんでした。その経過説明と協力並びに感謝と、「初めて大阪で開かれる国際大会には、一人でも多くのロータリアンの参加をお願いし、お待ち申し上げます。」との書状をガバナー宛に戴きました。

本年5月に開催されたブリスベン国際大会で、ピチャイ・ラタクル前年度RI会長は挨拶の中で、振り返って一番心に残ることは、任期中に一度だけ妻に「寂しい」と言われたそうです。早く妻のもとに帰ってあげたい。又これからは所属のトンプリクラブの一会員に戻ることを心待ちにしているという話をされました。更にロータリー活動の原点はクラブであることを強調されていました。一ロータリアンとして活動する喜びには、嘗て1905年にロータリークラブが4人の方々によって作られましたが、設立された当時の精神的背景と同じく、この寂しさを解消する事が目的のひとつにあるのではないかと思います。

今年度のジョナサン・マジアベRI会長は、重点目標として4つの大きな目標を話されました。

1番目は家族への心遣い、2番目は非識字(文盲)の方への教育、3番目は貧困の解消、4番目は保健問題への対応(病気になる前の対応・プライマリーケア)ですが、

家族への心遣いを最も強調し、奥さんのアデさんへの感謝の気持ちを話されておりました。彼女はこの時ロンドンの病院で危篤状態にあり、この2日後に亡くなられました。奥さんのアデさんは笑顔の大変素敵な方であり、笑顔の持つ素晴らしさを改めて気づかせてくれるような方でした。この演説最中のマジアベさんの心中は断腸の思いであつたらうと推察しております。

さて、ロータリーは2005年に100年を迎えます。記念の年にあたりRIは3つの大きな目標を掲げました。

1番目は会員を150万人にする事ですが、現在120余万人ですからこれは少し難しい気がします。

2番目はポリオの撲滅です。既に無くなったものとして考えられていますが、世界中では逆に増えている国々があります。それはインド・パキスタン・ナイジェリア等です。また撲滅宣言をしたアンゴラ・バングラディシュ等でも今後の推移を慎重に見極めなければなりません。発症の報告が無くなってから3年間を経過して、初めて撲滅宣言が出せるものですから、まだまだ不断の努力をしなければなりません。

3番目は財団へみなさんから100ドルの寄付をしていただきたい。

またロータリーの存在意義を問われているような問題が内外に山積しております。ロータリーで不変のものは何でしょうか？ 又変わらなければいけないものは何でしょうか？ ロータリーで不変のものは年度計画書の最初にある綱領であり、四つのテストも変わってはならないものではないかと考えます。変わってよいもの、それは奉仕活動です。時代とともに変わらなければならないと思っています。親睦という言葉は英語のFellowshipから来ています。ゴルフや観劇や親睦旅行などの親睦委員会活動とはつきり違います。「花の下赤の他人はなかりけり」という言葉で言われるような、皆の気持ちに一体感が醸成される事だと思えます。ロータリーの例会に出席し、気持ちの一体感を持つこと、これは変わってはならないものでしょう。それでは変わって良いものとは何でしょうか。これは社会の変化と共に変わる我々の奉仕の活動そのものだと思います。

ここでみなさんにお考え頂きたいのですが、「奉仕の理想」という歌がありますが、奉仕の理想とは一体何でしょうか？ 大変難しいことですが、簡単な言葉でいうと「他人の為に尽くすということに、自分の幸せというものを見出す、探す」という事ではないでしょうか。ロータリーの会員になる事は簡単ですが、ロータリアンになることは大変難しい事と思えます。先ほど、他人の為というお話をしましたが、マタイ伝第七章に黄金律として知られる次のような言葉があります。「自分の望むところを他人にもしてやれ」これは西洋だけではなく、東洋では論語の忠恕という精神も「他人の望まぬことを他人にするな」と同じ様なこ

とを言っていますが、一方は片方は他人のために積極的であり、もう一方は消極的です、ロータリアンがどちらを選ぶかは明白だと思います。また仏教でも、最澄が「山家学生式」で唱えた「悪事は己に向け好事は他に与え、己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」などは、ロータリーにとって非常に大事な言葉・精神だと理解しています。

難しい話はこの辺にしますが、マジアベさんは貧困からの脱却についてこんな事を言っています。「自分と同じ人間が生きるか死ぬかの瀬戸際にある時、手を差し延べ安全な場所に導きたいと考えるのは人間として自然であり、当然である。」この考え方が今年のテーマの Lend A Hand (手を貸そう)の精神になっています。ここで Lend は Rent ではないことにご注意下さい。Rent はお金を取る意味があり、Lend は無償の奉仕という意味があります。今年のテーマは Sow the Seeds of Love (慈愛の種を播こう)でありまして、今年のテーマは Lend A Hand (手を貸そう)ですが、ロータリー100年の歴史の中で似たようなテーマが2年続けて出た事は、嘗てありませんでした。「手を貸そう」というテーマは、皆さんの身近なところから皆さんの職業に応じて、ロータリークラブや地域社会、そして国際社会にまで、何時如何なる時にも発揮できるものだといえます。

もう一つはロータリー家族という問題があります。RI会長のマジアベさんの言葉を借りれば、「人は、打ち込めることがない集団からはためらわずに立ち去りますが、家族を離れることは出来ない。」また、「人は家庭的な雰囲気があればその集団からは立ち去ることはない。」とも明言しています。この家庭、家族的雰囲気というものこそが、退会防止の大きな力になり、ロータリーの持続的な成長の重要な推進力になるものだと思います。又この話の中で、「ロータリー家族」と「ロータリアン家族」という二つの言葉が使われました。「ロータリアン家族」というのは、ロータリーの現メンバー、元ロータリアン、ロータリーの現メンバーの家族、そして亡くなられたロータリアンの配偶者を指します。

それでは「ロータリー家族」とはどんな人たちでしょうか。これは奨学生の方々、関連の方々、事務局の方々を指します。ロータリー定款が昨年少し変わりました。その中で特に「ロータリークラブの会員が亡くなった時に葬儀に出席する為なら例会を中止してもよろしい」という変更にご注意してほしいのですが、これはロータリアンが亡くなることは、ロータリー関係の終焉・終結ではないということです。マジアベさんはこうも述べておられます。「ロータリーの最新情報を家族の方に伝えて、家族でロータリー・プロジェクトを組んで下さい。そして、故ロータリアンの配偶者をロータリーの例会や集会に呼んだり、月信を送って上げて欲しい。」

最後になりますが、こんなエピソードをご紹介します。

八王子で中規模の会社を経営されている、いわゆる立身出世の社長さんが、故ロータリアンも招かれている席で講演をされた時にみなさんに赤飯を出されました。その赤飯に訝る出席者も、講演の内容を聞いて涙し、その赤飯を噛みしめたそうです。その社長さんは、16歳の時までに心に決めたことを実行しなかったのですが、家を出ようとした。貧しい農家の長男で思うようなことが出来ない為、その当日の明け方に家族が寝静まっているはずの台所で、その方のお母さんが何か用意をされていて、いざ出かけようとする社長さんに無言で赤飯を食べさせたそうです。今、子供たちが残酷な事件を起こしたりして世の中が少々乱れていますが、これは子供の問題ではなく、大人の問題として考えるべきだと思います。戦前は修身や道徳で孝養の精神を教わる場がありましたが、戦後の教育からは消えてしまいました。社長さんのエピソードにあるような気持ちの通いあう家庭を取り戻すことや、地域の結びつきを深める事は、これから益々大事になるのではないのでしょうか。

長くなりましたが、このような現在の問題を通じて我々大人のロータリアンとして考えなければならない事を幾つか話させていただきました。心に留めていただければありがたいと思います。

ありがとうございました。

ニコニコBOX委員会

藤井 仁 委員



(順不同・敬称略)

小此木 利明 国際ロータリー第2570地区ガバナー
高山 孝様、第四グループガバナー補佐
浅田 進様ようこそ本庄クラブへお越し
下さいました。本日はご指導よろしくお
願い致します!!

(以下同文でご投入がありました。)

齊藤 清一・戸谷 丈・笠原 勝・矢島 淳一・
橋本 恒男・狩野 輝昭・岩淵 富男・下山 正男・

茂木 正・金子 弘・加藤 玄静・田沼 正・
 飯島 憲司・小林 雅幸・竹中 俊吾・高柳 育行・
 佐藤 三郎・渋谷 修身・茂木 聡・田中 克・
 南 正・井河 久昇・三宅 健吉・飯塚 明男・
 岩本 英人・梅村 孝雄・野村 正行・金井 澄雄・
 石原 輝弥・立石 秀寿・松原 幹男・横尾 弘明・
 佐藤 敬一・中島 高夫・温井 一英・岡芹 正美・
 佐藤 賀則・巴 高志・渋谷 健司・古瀬 末雄・
 野澤 章夫・関口 雅之・高橋 福八・黒岩 三雄・
 江原 栄一・春山 茂之・後藤 芳生・杉山 淑子・
 内野 昭八郎・小此木 昭二・竹並 栄一郎

出席委員会

岩淵 富男 委員



竹並 栄一郎 11月7日に平成15年度自治功勞により本庄市長より表彰状を受賞致しました。

本日欠席の連絡を頂いた方は、牛久保 佳郎さん、野澤 章夫さん、岡崎 正六さん、横尾 セツさん、阪上 清之介さん、沼田 恵義さん、石原 修さん、戸谷 清一さん、福島 文江さん、町田 国彦さん、八木 茂幸さん、野口 光大さん以上です。

入 利雄 国際ロータリー創立100年をお祝いしましょう!!!

藤井 仁 ニコニコBOX委員会の皆さん、いつもご苦勞さまです。頑張ってください!!!

本日の投入金額合計 ¥ 55,000.

会員数	出席免除 会員	出席義務 会員	出席会員	出席率
86名	6名	80名	75名	87.2%

(内メーカーアップ15名)

クラブ会報委員会

巴 高志、茂木 聡、三宅 健吉、野澤 章夫、小林 雅幸

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 例会場 埼玉グランドホテル本庄
 事務所 埼玉グランドホテル本庄700 〒367-0041 本庄市駅南2-2-1
 TEL 0495-22-7522 FAX 0495-22-3571 E-mail honjorc@themis.ocn.ne.jp
 ホームページ <http://www.globals.jp/hp/HRotary/index.html>

クラブ協議会

